

花の香 いけばな展を終えて

花芸安達流 徳島県南部支部 支部長 田渕 和瞳

2023年6月18日、19日、阿南市役所1階 多目的スペースにて、華展を開催しました。支部一同力を合わせての催しです。

美しい木々や花を使って、木や枝と対話しながら制作に挑みました。

中央に竹を使った大作、アジサイの迎花、ガラス器の小作品、周りには会員一人一人の作品、会員が指導する富岡東中学、高校の生徒作品を含めた28点を展示しました。生徒たちの若い花には未来への希望を見ることができ、一気に会場を明るくさせてくれました。作品には春から初夏を彩るコチョウラン・アジサイ・向日葵などが生けられ、それぞれの特徴を生かした、自然の美しさを表すことができたと思っています。

訪れた人は、躍動感溢れる力作の数々に、感心しながら一つ一つじっくりと見入っている様子でした。

花芸安達流は、初代安達瞳子主宰によって創流され、その生け花観にもとづいて「花芸」という言葉を使っています。

花芸は、花の芸術、それは、日本の伝統華道の「花」と西欧の芸術を学ぶ「芸」のそれぞれの長所を生かしたいとの思いからのようです。創流とともに「花芸憲章」をつくられました。

「花芸憲章」では、①日本民族の美を愛する心の結晶 ②自然の心を生ける芸術 ③自然の心と一体になった造形 ④自然の四次元の生命のつり合いの表現とうたっています。

花芸安達流徳島県南部支部は、神田寿瞳先生と先輩先生方が支部を結成し今年で約56年になります。

安達瞳子主宰には、年に一度直接ご指導を受けましたがその凛として気品に満ちたお姿は、私たち門下生の記憶に強く残っています。

花芸安達流は、一木一草に宿る「自然の心」を生ける流派です。植物と人間との素朴な交わりをととても大切に、自然中心的な花芸の世界観につながっています。

現代は、物質的には豊かになりましたが、その一方で、心の豊かさは

どうだろうと思うこともあります。物質的な豊かさと心の豊かさは違うものだと思うので、花を通して心の豊かさを生み出すことができたと思えます。いけばなの楽しみ方は、花材や器の取り合わせ、場との調和とさまざまですが、ぜひご自宅にも、このような花の場を作ってみてはいかがでしょうか。一輪挿しでも十分。すてきな花空間が誕生します。

この度会場を提供下さった阿南市役所、協力下さった阿南市文化協会、阿南市華道連盟、徳島新聞社、四国放送、株式会社ケーブルテレビあなんにお礼申し上げます。

主催者一同心より感謝します。

あなん文化紀行は偶数月号に掲載します。

問い合わせ 文化振興課

☎22-11798

